

## あとがき

『総合車両製作所技報』第6号をお届けいたします。

今回はJ-TREC創立5周年を迎え、【J-TREC技術の源流をたずねて】と題し特集いたしました。

J-TRECの前身の旧東急車輛製造時代に開発したステンレス車両の黎明期第0世代セミステンレス車両「東急電鉄5200系」1958年製造と、第1世代オールステンレス車両「東急電鉄7000系」1962年製造は、当社正門通路横に日本機械学会認定「機械遺産」として展示してあります。ほとんどメンテナンス無しで約60年経過した今もステンレスの輝きを維持しております。

耐久性とメンテナンス性、軽量化を合わせ持った、鉄道車両に最適なステンレス構体を更に進化させたステンレス車両を、sustinaブランドとして今年は新規に4車種出場させて頂きました。JR東日本山手線E235系量産車、京王電鉄5000系、東京都交通局5500形、東急電鉄2020系の4車種です。京王電鉄5000系は、レーザ突合せ溶接を用いたフラットな車体構造の初の量産車となりました。またsustinaでは、ステンレス構体のみならず、走り装置、電気部品、機械部品、客室設備品など、できるだけ共通プラットフォーム化を図り製作母数を増やすことにより、品質の安定、コスト低減をコンセプトにしております。東京都交通局5500形、東急電鉄2020系は、フラットな車体構造とトータルシステムを一括受注させていただき、製作いたしました。今後とも共通プラットフォームをさらに充実させ、顧客の皆様のご期待に添うべく努力してまいります。関係各位皆さまのご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

取締役 生産本部技術部長

新井 静 男